

# 世界中が互いにたすけ合って 「陽気ぐらし」が私たちの願い

人間の身体は、親神様からの「借り物」ですが、心は自由につかうことができます。

天理教の教祖は、我が身勝手に自分中心の心づかいをほこり（埃）と教えられました。

埃は知らない間に積み、小さなものなら簡単にきれいに払うことができますが、積み重なると、取り除きにくくなるものです。

私たちの心も同じです。心の中にほこりが積み重なると、心は曇って、本来の明るさを失い、「陽気ぐらし」に向かうことができなくなります。

心のほこりを掃除する手がかりとして「八つのほこり」を教えてください。



物を大切に  
しましょう。



天の恵みに感謝して  
いただきます



人の物を見て欲しがり  
まだ使える物であっても  
平気で捨ててしまう。

あるにもかかわらず  
贅沢な物を食べたい  
高価なものが欲しい

## 「八つのほこり」

- きしい
- ほしい**
- にくい
- かわいい
- うらみ
- はらだち
- よく
- ごうまん

…  
ほしいとは…

心も尽くさず、身も働かずして、金銭や物を欲しがる心、あるが上にも欲しがる心はほこり。  
人のために幸せになってほしい、たすかってほしいという心遣いはほこりではありません。

元気が一番  
ありがたい

金銭や物が  
十分ないと嘆く

働いた以上に収入を  
貰いたい。業をして、  
人一倍貰いたい。  
『働くというのは、はたはたの  
者を業にするから、はたらく  
と言うのや。』  
(注)

(注)『教祖伝説註編』  
一九七『働く手は』

# TENRIKYO

## 「 One World One Family 」

世界中の人間は一つの家族 たすけ合って困難を乗り越えよう

新型コロナウイルスは世界中へ広がり、いつどこで感染するか分からない状況になっています。国内では、感染予防に対応した“新しい生活様式”への変化が求められていますが、それだけでなく、私たちの心のありようも変えていく必要があるでしょう。

マスクをつけ、人との距離をとる、手洗いを励行するなどの対策を継続して、ウイルス感染を広げないようにするためには、なによりも人と人がお互いに思いやり、共にたすけ合っていく“優しい心”が欠かせません。

社会的距離を取っても、心の距離は決して遠ざけない。むしろ心の距離が

より一層近づくように、周囲の人を思いやり、温かい言葉をかけ合うことが、コロナ禍を終息へ向かわせる鍵になると私たちは考えています。

世界中の人間は一つの家族です。  
“優しい心”でつながり合って、  
困難を乗り越えていきましょう。

